

余至黃州二年 日以困匱 故人馬正卿 哀余乏食 爲於郡中請
故營地數十畝 使得躬耕其中 地既久荒爲茨棘瓦礫之場 而歲
又大旱 墾闢之勞 筋力殆盡 釋耒而嘆乃作是詩 自愍其勤
庶幾來歲之入以忘其勞焉

余黃州に至りて二年 日に以つて困匱す 故人馬正卿 余が食に乏しきを哀
れみ爲に郡中に於いて故の營地數十畝を請ひ 其の中に躬耕するを得使む地
既に久しく荒れ茨棘瓦礫の場と爲る 而して歲又大いに早し 墾闢の勞 筋力
殆尽き 耒を釋きて嘆ず 乃ち是の詩を作り 自ら其の勤を愍む 庶幾くは來歲
の入以て其の勞を忘れんことを 「蘇東坡」 近藤光男より抄出

東坡八首 其一 (二〇八一年) 四十五歲

(中国名詩選(下) 川合康三 三〇八頁)

廢壘無人顧

廢壘 人の顧みる無く

頽垣滿蓬蒿

頽垣 蓬蒿滿つ

誰能捐筋力

誰か能く筋力を捐てんや

歲晚不償勞

歲晚 勞を償なわれず

獨有孤旅人

獨り 孤旅の人有りて

天窮無所逃

天窮せしめて逃るる所無し

端來拾瓦礫

端に來たりて瓦礫を拾うも

歲旱土不膏

歲旱にして土膏ならず

崎嶇草棘中

崎嶇たり草棘の中

欲刮一寸毛

一寸の毛を刮らんと欲す

喟焉釋耒歎

喟焉として耒を釋きて歎く

我廩何時高

我が廩何れの時か高からん

東坡八首 其四

(中国名詩選(下) 川合康三

三一〇頁

種稻清明前
 樂事我能數
 毛空暗春澤
 針水聞好語
 分秧及初夏
 漸喜風葉舉
 月明看露上
 一一珠垂縷
 秋來霜穗重
 顛倒相撐拄
 但聞畦隴間
 蚱蜢如風雨
 新春便入甌
 玉粒照筐筥
 我久食官倉
 紅腐等泥土
 行當知此味
 口腹吾已許

稻を種う 清明の前
 樂事我能く数えん
 空に毛して春沢暗く
 水に針して好語を聞く
 秧を分かちて初夏に及び
 漸く風葉の舉るを喜ぶ
 月明露上に看れば
 一々珠縷を垂る
 秋來霜穗重く
 顛倒して相い撐拄す
 但だ聞く畦隴の間
 蚱蜢風雨の如きを
 新春便ち甌に入り
 玉粒筐筥を照らす
 我久しく官倉を食む
 紅腐して泥土に等し
 行ゆく当に此の味を知るべし
 口腹吾已に許す。